

牛木商事の

かってに かわらばん

《第8号》

☆☆☆ 名立の民話 ☆ 『子どもの好きな神様』 ☆☆☆

名立村平谷に白山神社があって、村の子どもはいつも境内に集ま
つては、石けりをしたり、かくれんぼをしたりして、朝から晩まで
遊んでおったとき。

ある日のこと。きかんぼうの権太は石けりやかくれんぼにすっかり
あきてしまって、

「なんか、面白いことないかな。そうだ、神社の中へ入ってみよう。おく
い。」

と仲間を誘って、恐る恐る神社の戸を開け、いつも閉まっている奥の
戸もそっと開けたとき。

中は薄暗く、台座ののった菊理姫命の木像が置いてあったとき。
いたずら者の権太は、ひょいと手を伸ばし小さな木像をつかむと、

「これ、なんだか知ってるか」
とそばで遊んでいる小さな子どもにみせびらかすように見せて、

「あのお堂の中にあつたんじゃ、なあ」
仲間と一緒に得意そうに「にっ」と笑ったとき。その内、

「なあ、この神様、すすけて黒うなってるぞい、川で洗ってやるまいか」
「そうだ、洗ってきれいにしてやるう」

「洗ったらきれいになったぞ」
「俺にもかせ、俺が洗う」

子どもらは「俺にも俺にも」と元気な声を上げご神体の木像をか
わるがわる洗っている所へ、お宮の下に住む勤助じいさが通りかかった
とき。

にここにして子どもらの遊んでいるのを見ていて。あの木像はなんじ
や、はてなど考え込んで白山神社のご神体だとわかると、

「このいたずらガキどもめ、大切なご神体を川の水で洗うちゃ、何
事だ」

勤助じいさはでっかい声で子どもらをしっかりとばしたとき。

子どもらはびっくりして、ご神体の木像を元の所へ戻して、しお
しおと家へ帰ったとき。

その翌日のことじゃった。
元気者の勤助じいさが、いつものように朝早く起きようとするけ
ん、体が動かんかったとき。

「どうしたというんじやろう。急に病気になるてしまふとは…」
不思議に思った勤助じいさは易者にみてもらったとき。

易者は長いお経を唱えていうたとき。
「神様のお怒りで病になったのじゃ。白山神社の菊理姫命は子ども
が大好きで、子どもと楽しゅう遊んでいたのにじゃまだでしたから
じゃ」

勤助じいさは昨日のことを思い出し、神様は子どもと仲良う遊
んでおられたのかと合点し、除けをしてもらいと、いつもの元気を
取り戻したとき。

それからのこと。村の衆は神社の境内で元気に遊んでいる子ども
を見ると「神様も喜んでいなさるわい」とほほ笑み、「子どもの幸せ
を守ってくたされや」と手を合わせたそうなの。

おしまい

カーボンニュートラル

(燃焼しても大気中のCO₂を増加させない)の資源を使った

木質ペレットストーブ

を事務所に設置しました。

化石燃料から発生されるCO₂を削減。
灯油と違った優しい暖かさです (^H^)

☆☆設置状況☆☆

